

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *



令和8年第12週 (3月16日～3月22日)

インフルエンザが増加しました

今週の報告数は39人となり、先週の22人から増加しました。型別は、A型:9名、B型:26名、不明:4名となり、幼児から学童期ではA型とB型の報告が混在しています。豊肥管内の定点あたりの報告数は5.20人と、先週の5.40人と比較して、ほぼ横ばいです。型別は、A型:35%、B型:58%、不明:7%となっています。大分県全体の定点あたり報告数は10.19人となり、先週の12.09人から減少しました。引き続き、手洗い、咳エチケット、換気などの基本の感染対策を行い、感染拡大を防ぎましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告がありました

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱、のどが赤くなり強い痛みを伴う、舌が赤くなりぶつぶつする(莓舌)などが主な症状です。まれに合併症が起こることがありますので、症状がある場合は早めに医療機関を受診し、抗菌薬が処方された場合は、指示通り最後まで内服しましょう。

麻しんの報告が国内で増えています

国内での麻しん(はしか)報告数が急増しています。2026年第11週(3/9～3/15)で前年同時期の約4倍となる139名に達しました。学校および不特定多数が集まる施設等での集団感染も報告されています。なお、令和8年3月23日時点で、大分県での報告はありません。

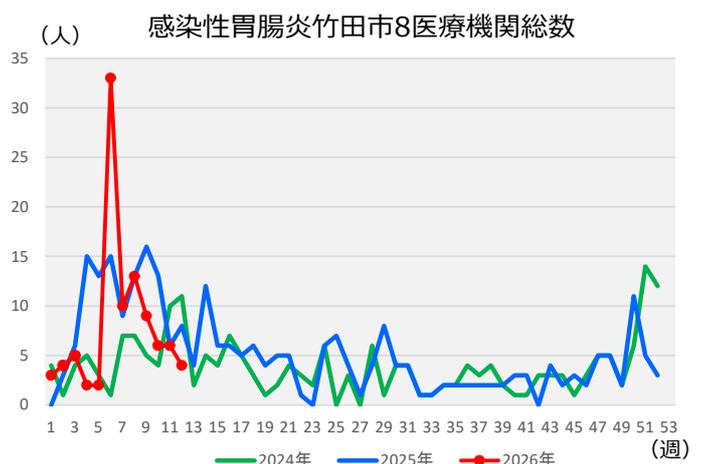
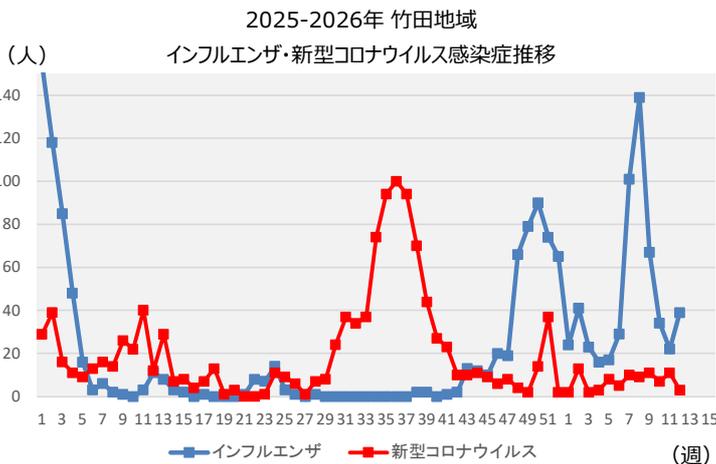
麻しんはとても感染力が強く、空気感染、飛沫感染、接触感染で広がります。麻しんに対する最も有効な予防法は、あらかじめ予防接種で免疫を獲得しておくことです。定期予防接種(第1期:1歳児、第2期:小学校入学前の1年間)を受けましょう。予防接種を2回受けていない、接種歴が不明、麻しんの抗体検査の結果で免疫がないことが判明した方は、予防接種をご検討ください。

また、海外旅行中に感染した報告もありますので、渡航前に予防接種が必要が確認しましょう。



(第12週) (調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)	
	A型	B型	不明																	
0歳																				
1～3歳	2		2																	
4～6歳		2					1	1												
7～9歳	3	2		1							1									
10～14歳	4	12		1																
15～19歳		3																		
20歳以上		7	2	1				3												
今週	9	26	4	3			1	4			1									
	39																			
70歳以上(再掲)				1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
先週		22		11			3	6				2								



基本的な感染対策

感染予防に取り組もう！

1. 「体調おかしいな？」は休んで感染の拡大防止！
2. その場に応じて、マスクや咳エチケット！
3. 常時、または、こまめな換気！
4. 手洗いや手指消毒をしっかりと！



感染症対策

ま 麻しん (はしか) に

ちゅうい
ご注意ください



症 状

感染すると約10日後に発熱やせき、鼻水といったかぜのような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

麻しんかな？と思ったら

医療機関に電話等で麻しんの疑いがあることを伝え以降は医療機関の指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

感 染 経 路

空気感染等により、簡単に人から人に感染します。麻しんの免疫が不十分な人が感染すると、高い確率で発症します。

予 防 方 法

ワクチン接種が有効です。定期接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）、医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、予防接種が済んでいるかご確認ください。



海外での感染にもご注意ください

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

 厚生労働省

感染症対策課 2026年3月 作成

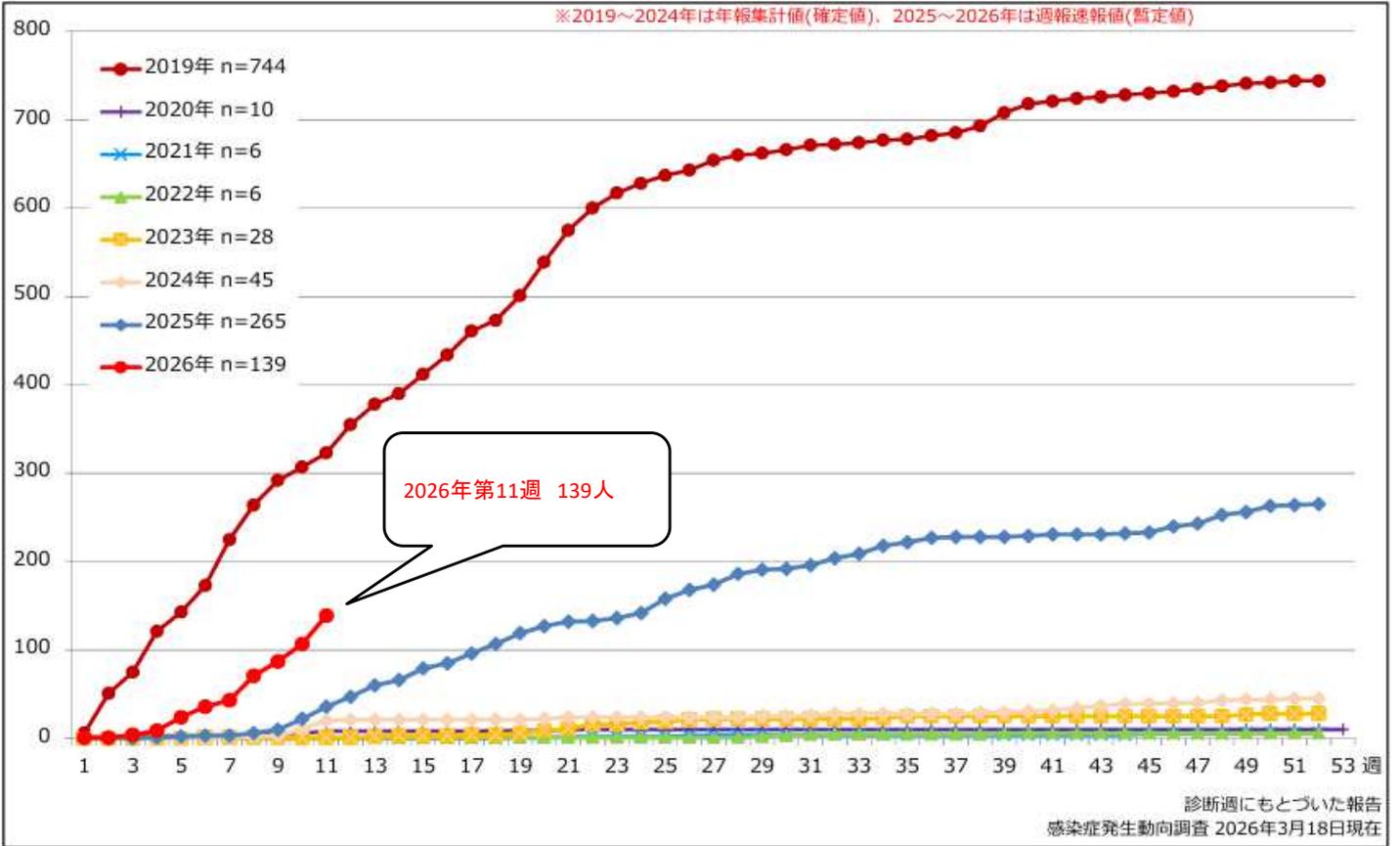


日本国内の麻疹累計報告数の推移

出典: 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サ

1. 麻疹累積報告数の推移 2019~2026年 (第1~11週)

Cumulative measles cases by week, 2019-2026 (week 1-11) (based on diagnosed week as of March 18, 2026)



4. 都道府県別病型別麻疹累積報告数 2026年 第1~11週 (n=139)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-11, 2026 (as of March 18, 2026)

■ Clinically diagnosed ■ Laboratory diagnosed ■ Modified measles, Laboratory diagnosed

